
ヘリオスへの渴望／狂想詩集

藤原建武

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヘリオスへの渴望／狂想詩集

【Nコード】

N1710Y

【作者名】

藤原建武

【あらすじ】

「罪」をテーマに、今年の八月頃に書いた六編と、その前後の作品を随時追加していこうかと。詩を書くことは、小説を書く前に必ずやるもので。それなりにたまっています。

「声帯」／「罪」／「蘇莫者」

「声帯」

戦うことをやめた
無力、闘争心の喪失
なら生きることをやめろ

正義然たる正義
騙る、偽善者ども

戦うことを忘れるな
守れないのなら
なお罪深い

怒りさえなくしたか

正義然たる正義
それこそが罪だ

声はどこから出る？
声帯を、

生きることが力強く、
在り方を示せ

「罪」

飽和

必要以上の殺戮

生きる以上の虐殺

神は許された

殺すことを

しかし今に、飽和

満ちあふれる罪

無許可に増え続ける

調和せよ

「蘇莫者」

すべての生命に祝福を

生きとし生けるもの

殺し奪うもの

神は許された

汝ら罪なし

遍く陽の下

青き海は赤に変わる

命

去るものとゆくもの

見つめろ、真実
聞け、絶命

それこそ生きる姿

神の祝福を
愛の育みを
汝ら罪なし

「ヘリオトロープ」／「偽りの平和の偶像の下で食る夢」

「ヘリオトロープ」

ああ、薄明の空に輝く

白銀のヘリオス

地上の罪に空は鎖された

愛さえも渴いた今に、

彼の時代への渴望

時は穏やかに流れ、

死の影は優しく、

悲しみはひそやかに

白銀の時代、大地は歌っていた

今は地上の罪に目を閉じる

暗黒は乱雑に、

生を踏みにじる

病は残酷だ

朽ちてく時を止められない

いつか暗黒の凍土

風さえなき、静止の時

「偽りの平和の偶像の下で貪る夢」

暴かれる悪徳の構造

escape、より深く

内側より蝕んでいく

空虚なる世界

満たすは憎悪と悪意

中立とは名ばかりの腐蝕

問われないことの傲慢

その果々しさに

思想の植えつけ、洗脳

Have you watched the mirror?

That it is reflected arrogant
your face

Have you felt nothing?

Frogeater

Sink into the dark water
Lose even the breathing

罪深さに眠る

夢という名の罪悪

安楽に耽る

偽りの平和の偶像の下

「罪深き小夜」

「罪深き小夜」

戸を打つ、風

誰かに呼ばれた気がした

素足で駆け出す

空の音、聞こえてくる

乱流、翻弄される雲海

燃えるような紅

今、金色に変わる

こんな夜明けに立ち会えたなら……

打たれた鳥は羽ばたきを止め、

水面の影は息を潜める

ここにはもう何もない

百万年の終幕に

「神は死んだ」

根付く自由、罪の動物

騙る、欲望の肯定

その痛みを誰が知るだろう

「誰よりも」の自惚れ、想うことを忘れている

傷つき痩せた今、言葉は意味を失った

揺れる瞳、かすかな息づかい

深く沈めた、知る由もない

「救いたい」願いは欲望

そして傍にある、時を重ね合う

そのことを知らなくていい

ただそれだけが欲しいのだから

憂鬱、溜息混じりに

記憶は形づくられた

求められる偶像

唱和、「神は死んだ」

※解説

蛇足ながら解説——という名の言い訳——を付したいと思います。

先の三編は、同じ一つのことから着想を得ました。

「罪」と「蘇莫者」で矛盾していますが、物事の二面性をグレーに書いて一つにまとめるか、両極端に書いてみるかで、迷うことなく書いた後に気づきました。言い訳として、両極端にしてみたということ。

「声帯」はシーシェパードとかグリーンピースへの憤りです。捕鯨の、自然との闘いに「蘇莫者」、地球を食い尽くすほどに増殖した人間に「罪」。

神々いつてますが、僕はべつだんアニミズムです。

「ヘリオトロープ」からの三編は、発展ばかりを「良し」とする世界に、文句をたらたら書きました。「ヘリオトロープ」はアルカディアへの幻想です。これを主題に他五編を書きました。

「偽りの云々」は、人が罪の歴史を忘却してしまうことと、ヘイトクライムに対して。

「罪深き小夜」は人間のエゴ。

ちなみにこの三編は、一つだったものを三つに分けました。

大幅に書き直したけれど、今見返すと、自分で何を言ってるのか分からない部分も多々ありますが、読んでみて、面白かったら良かったです。

「五月に染む」

親愛なる友へ

月の照らす海に

君はいる

僕が行くところに

君はいる

正しさも血に吞まれ

その裏側の真実は

体制の暴に沈む

君が訴える声も

この闇には届かない

いつかの約束も

弁の立つ羊に貪られた

罪悪、共に歩む

共犯たれ

死を掲げよ

空さえも色を濁した

今、人の罪に目を瞑る

彼女は去った

その是非はともかく
この空さえも色を濁すなら
塵と化せ世界

一つの正しさを示すだけで、
疑いさえしない

ここにはもうない

いつかの向こうで

“ 本当 ” はあるだろうか

この胸の痛みも

君の声も、届く日が来る

そう願う

「ウクライナ - 32℃」

H o l o d o m o r

虐殺、殺し尽くせ
沈黙、問うべくもない

享樂、貪る群れ
断罪、撃ち墜とせ

繰り返す罪にさえ還ることなく
いや増してく破壊の輪舞

己の姿に向き合うことなく
ただ積み重なって、いつか暗黒の凍土

J a n e z a b u v a y u p r o t e b e
S y n y e n e b o i z a p a k h p r e r j i

H o l o d o m o r

収獲、首を刈れ
燼滅、もはや風さえ亡き……

繰り返し積み上げられたことで
あとわずかで終わる、世界

J a n e b u d u z a b u v a t y, s h c h o p o k

i y a
c h k a
h a s r
a t h , n
y c
s h
y o
a t
z a k,
v
a t
s o
k j
o l a
y b
? u
n d
e u
b z
u u
, d s
t
r

「凶暴な感情」

壊れていくさまが見たい

美しかったものの、壊れていくさまを

血に飢えている

その先じゃない、そこへ向かう

嘆きの叫び

not love only by destroy
even if what I, you do not love
me
I want only it, only
therefore:

沈むように耽る

皮膚を裂き、肉を抉り、骨を砕く

そこへ向かう、嘆きの叫びだけが優しい

who did so it?
I hate a fellow who made me
even in the society:

朽ち果てろ と、願う 甘く

耳朶をふるわす声、触れて柔らかな

憎しみの子宮

i
n

c
h
a
i
n
:

「憎しみの子宮」

せめぎ合い、軋む

filled the uterus with
ills
sophism, hypocrisy, deception
etc.:

look at their with suspicious

Let! overflow

溶け合い、絡み合う

filled the uterus with
ills
insanity, ferocity, brutality:
jammed all

キレイごとばかりで覆った上辺に

異様な監視社会

車輪を回す舵手は？

ドグマの陥穽

そこへ到るまでの径

Let! overflow

さあ差し出せ

beunions the uterus
of
illsoviparous fishery
products
rot
ten smell

i s i t a w i s h ?

t h u s f i l l e d u p

滴った血で形づくる

産声をあげた

凶暴な感情

c o u n t d o w n

「KIRYA」

思い出の青

記憶の中の花

野原の香り

Days, Weeks, Months, four Seas
ons:

雪の夜のような静けさ

目の前に広がる、

荒涼の大地

If nature is copied from art
The sin of the parson, that it
will be so

傲慢さに殺された、弱者、配膳の列に並べ

傲慢さを振りかざし、失われていくことの意味を

もし「そうだ」と言えるのなら、罪の所在は？

Conviction
Expose the sin
Should die

強欲に食い尽くす、斑喰
崩れていく、失われていく、消えていく
無残に奪われていくことの意味を
決して忘れない

Conviction
Execute the sin
Good bye

grass
flower, rain
toxic, pollution, arsenic, mer-
cury
cancer, self-cleansing action
明日へ伝えるべきこと

触れるビロードの柔らかさ
温かな、腕の中に眠る
甘い匂いがした
愛している
だから
赤く濡れた夢が

「Industrial desire」

forced obedience, legal slavery
breeding sexual prime, and dis-
posable

夢を見ていたんだろ？ 悪くないさ
どこまでも君は純粹だ

thus your face imitate display
in that, they forced behave yo-
urself
however indeed you sink, I fin-
d your eyes

健気に笑う君のしぐさが哀しくて
「何故？」と問いかける

incompetent a plan, arrogant p-
igs
disgrace, plunder, by all the
empty head
the victim

「traffic」

母恋しと泣く子供をあやす欺瞞
熟れた果実の腐液を啜る愉悦

甘酸っぱさに嘔吐

保護本能の倒錯

飢餓バースト

健脚、垂涎の的

肉の甘み

籠に飼われた雛鳥を殺む懈怠

I n d u s t r i a l d e s i r e

平等なんて嘘さ

ようは権力を傘に差した自由

百万の幸福と一億の不具

それがバランスだろう？

一粒のカカオにさえ劣る命の価値
刈り取られるだけに垂れた首

食われるだけの

膿んだ理想

暴利を貪り、還元されない愛

一粒のカカオに、一滴涙を

それさえ惜しむ

玩具を取り上げた親の諭す詭弁

Why do you just be forced labo
r?

「誰にでも降る雨」

毒を隠しての道連れ
それを善意とはいわない

自己犠牲の美談
本当の正しさは、そうじゃないだろう？

誰にでも降る雨が
どうしてこんなにも無慈悲に？

誰にでも架かる月は
夜召国、死さえも分かつか？

黒い雨
影としてつきまとう
拭い去れない雨
染みこんでいく
言葉の端々が
射られる
数え切れない目
影から逃れられない
骨を朽ちさせ
お前の心を殺す

Flash bang

轟音

鼻をつく死臭と、焼け焦げた腐敗

誰にでも続く太陽の道

どうして俺たちには？

共同体からの孤立

闇に取り残された例外

誰にでも降る雨が

どうしてこんなにも痛く？

降り注ぐ針と

剥がれ落ちるこの身

忘れてしまうことが正しさなら
いつまでも変わりはない

「カルナバル」

「my dear.

Does my voice reach you?

Please hear me your whisper…」

乳離れのできない thirty, forty children
その虚言に殺されていく

What color is your blood?

なお暗いその為に hope, future children
その浅ましさに奪われた

Why do you still live?

Look!

Flesh red blood

It is bleeding from my pain

I bleed red blood to same all

Look at

What color is your blood?

an implausible, but you same a

s mine

It is red blood to same

even so, why:

and so, was I raising o grease?

「STELLA」

車輪は褪せた色を投げかける
割れた光、まぶしい赤
にじんで消えていく

アガスティア、葉に記された

かすかな螢火、君は知ってほしかった？
そのことさえも

月を過ぎる、雲の千切れ
風と遊ぶ

双魚宮、太白の合
瞬く星、螢火の惑い

言葉が形を持つならば、
拾い集めた君の言葉で、
一つの絵をつくろう

刺さるような言葉と、
しみるような優しさ

左目に映す

その繊細さで、
壊れた欠片を拾う
君の繊細さで、
少しでも好きになれた
世界なのに

左目に映す
汗ばんだ鼻にかかる、一すじの髪
君は

車輪は鮮やかに映し出す
エンドロール、白抜きの文字

僕には分からない
君のことさえ

意味を拾おうと、
言葉の一つ一つ
噛みしめた

僕には分からない

「ANSWER」

色彩の空を

一路に

黄昏に消えていく

星の輪郭をなぞり

暮れる

skin, face, hair, eyes,
those color of the different

I answer hatred for hatred
though same of the bleeding
色分けされた地図

コンパスを持つ、幾何学の神

黄金郷

押し寄せる群衆

とどめない無関心と、暗に欲望

血の河と垂れ流す

受けきれない器は満ちて、

砕け割れる

憎しみに憎しみでこたえる

違う言葉を殺す、同じ言葉で傷つけ合う
バビロンの寓話

言葉になる前の言葉、それさえも食い違う
バイオリンの旋律（ガラスを掻く音）

遠い昔に、問いかけられた
まだその答えを、見つけられずにいる

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1710y/>

ヘリオスへの渴望／狂想詩集

2011年11月30日02時45分発行